

## デザイン 美術

# 天草陶石による人体造形

～高品質な地域資源で現代におけるリアリティを持った美を探る～



芸術学部 美術学科 教授

勝野 眞言 KATSUNO makoto

### ■キーワード

地域資源、天草陶石、焼成、彫刻表現

### ■シース概要

天草陶石は有田焼や波佐見焼、清水焼など全国の有名な陶磁器の原料として広く利用され、全国の陶石生産量の8割近くを占めています。砕きやすく成形しやすいうえ、粘土を混ぜることなく単独で焼成することができます。またその焼き上がりは硬く、濁りのない白色が特徴です。花器や食器が主に作られていますが、ここでは彫刻制作のなかでも人体表現の素材として研究を進めています。

塑造作品に用いる主な素材は、ブロンズ・木・石・樹脂・石などの他、600～800度で焼成するテラッコタが主です。テラッコタの場合比較的低温なため大気との親和性が高く柔らかな表情に仕上がります。高温（1230～1300度）で焼結させる天草陶土は硬質で、色・質感など粒度密度が高く、人の肌の表現に適しています。

彫刻における天草陶石を用いた表現を通し、新たな地域資源の再評価を図ります。



植・2014- I

## ■アピールポイント

■ 人体の造形活動をしてゆく上で、つくり手の土と火への働きかけによって様々なかたちを生み出すことが出来、無限な可能性を含んでいます。



傾・2012-I



傾・2012-II

## ■その他の研究シーズ

■ 住民参画型現代美術プロジェクト「大地のメモリア」  
(つなぎ美術館、平成 22 年 4 月 11 日～11 月 7 日)

水俣市の山間部にあるかわら工場跡地から採取した陶土で、地域の子供たちを対象に各自の思いを形にしたワークショップを開催しています。



## ■メッセージ

■ 地域にある資源を表現活動に利用することによって、地域の伝統文化を学び、自らが地域の関心を高め、地域特有の作品を創出したいと考えています。